

緑のセンターだより



No.137

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel：0166-65-5553 Fax：0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 24 年 8 月 1 日

《緑のセンターまつり2012》

場所：神楽岡公園・緑のセンター

平成 24 年 8 月 5 日（日）

時間：午前 10 時～午後 4 時



☆催し物： フラワービンゴゲーム、親子もちつき大会、よさこい演舞、神楽岡太鼓、
農産物・園芸即売、青空体験教室、納涼ビアガーデン、
切花市、「花と緑の相談コーナー」、農業高校の園芸市など

☆展 示： 洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押花（一部の即売もあります）

※先着 200 名さまにユニファ「スカイロケット」の苗木とチューリップの球根のダブルプレゼントがあります！

スタッフ一同、みなさまの御来場をお待ちしています！



プレゼント



（お申込み・受付は前月の 20 日から）

講習会のご案内

「パンジーと春咲き球根の寄せ植え」

とき 平成 24 年 9 月 16 日（日）

午後 1：30～3：30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員 教材費 ¥600

「庭木の冬囲い」

とき 平成 24 年 10 月 13 日（土）

午後 1：30～3：30 定員 20 名

講師 公園緑地協会職員

「神楽岡公園自然観察会」-秋の紅葉と巨木たち-

とき 平成 24 年 10 月 14 日（日）親子・一般

午後 1：30～3：30 定員 30 名

講師 旭川みどり 21 の会

代表 成田一芳さん

「庭木の冬囲い」

とき 平成 24 年 10 月 20 日（土）

午後 1：30～3：30 定員 20 名

講師 公園緑地協会職員

場所 常磐公園管理棟

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

展示会のご案内

「押花展」8/5～31 日

「花壇コンクール写真展」9/1～17 日

「温室の植物写真展」10/1 日～25 日

出展：押花サークル「つくしんぼ」 出展：花フェスタ実行委員会

出展：道新文化センター写真スクール

【休館日のご案内】

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です（祝日の場合は翌日）

11 月～3 月は毎週月曜日が休館日です （ " " ）



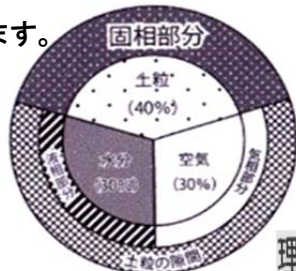
<園芸の基礎知識>

植物にとって良い土とは

◎土の三相

＝ 固相・液相・気相のバランスのとれた土 ＝

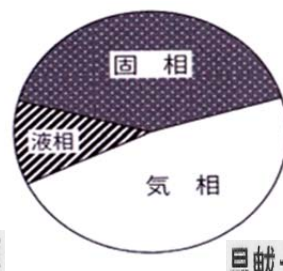
植物にとって快適な土とは、大小いくつかの粒子が混じり合って、それらの間に隙間があり、適度な水分と空気を含んだ固相・液相・気相のバランスのとれた土です。これを土の三相と云い、三相の容積比の割合を三相分布と云います。一般的に固相率 40%、液相率 30%、気相率 30%が理想とされています。



理想的な土壌



湿害土壌



旱魃土壌

◎植物にとって良い土の条件

＝ 通気性・保水性・保肥性のある土 ＝

植物にとって良い土とは、根の呼吸に必要な空気を含む通気性のある土、水を適度に含む保水性のある土、養分を含んだ保肥力のある土です。庭土などで表面が固くなった土の場合は、腐葉土等の有機物をよく鋤き込み、通気性をはかり、空気を含んだ土に改良すると植物にとっては快適な住まいになります。

（住化園芸 KK「園芸用土の基礎知識」から引用）

緑の相談 QアンドA (11)

シャクヤクの株が密生してきました。株分けはどのように行えば良いのでしょうか。

株が密生してくると、花つきが悪くなってきます。4～5年に一度の株分け、植替えが必要です。

時期～シャクヤクの根は、秋に気温や地温が低下してくると新根が伸びてきます。越冬後春になって再び根の伸長が始まりますが、この時に根を傷めると、根の伸長が止まり生育を著しく悪くします。したがって株分けは遅くとも9月中に終わるようにします。

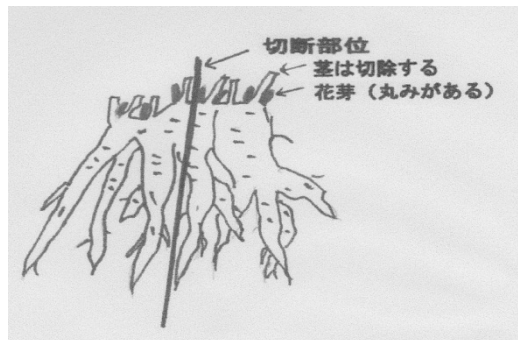
方法～掘り取りの前日には茎葉を刈り取り、根を傷めないように根を掘り取り、土を落とします。

1～2日位日陰に置いて根が柔軟になりかけた頃に、株分け作業を行うと良いでしょう。

1株に4～5個の芽を付けて刃物で切断します。

植え方～日当たり、排水の良い場所に、深さ幅とも40～50cm位まで掘り、堆肥、腐葉土などの有機物、リン酸肥料、配合肥料を混入します。

芽の部分が地表より5cmくらい土中に入るように定植します。



植物の病害虫

その14 「ナミハダニ」

1 加害される植物

リンゴ、ナシ、モモ、ブドウ、オウトウ、ダイズ、アズキ、ナス科、ウリ科、イチゴなどの野菜類、ダイズ、アズキ、インゲンマメ、エンドウマメなどのマメ科、花き類など幅広い植物に寄生します。



2 被害と生態

ナミハダニは年間およそ9世代を繰り返し、休眠雌で樹木の地際、粗皮下で越冬しますが、密度が高いときは果実の果梗やがく基部などで越冬します。また、雑草の株元や地表の塵芥の下、石の下などでも越冬します。

4月下旬から活動をはじめ、第1世代の多くは雑草で過ごします。果樹や他の植物への寄生は第1世代後期と第2世代の成虫によって行われます。第4世代以降になると夏型と冬型が混在します。8月以降の高温により卵期間が短縮されるため、次世代の発生までの期間が短縮され、その増殖は急激に高まります。発育期間は短く（25℃で約10日）、成虫の生存期間が長く産卵量も多いため、各世代が重複します。その結果、どの時期においても卵～成虫の各態が見られます。休眠雌は9月中旬頃から出現し、夏型雌と共存します。

ハダニ類は高温、乾燥条件を好むため、7月後半～8月の盛夏期には一気に増殖します。

成虫雌の体長は約0.6mm内外、雄は0.45mm内外で夏型は淡黄色～淡黄緑色です。雄の胸部左右には顕著な大型黒紋があり、黒紋は個体や時期によって大きさが異なります。休眠雌は澄んだ淡橙色で黒紋はありません。

幼虫は脚6本、乳黄色～淡緑色で黒紋は見られません。卵は淡黄色で球形です。

3 防除方法

- (1) ナミハダニは作物へ周辺などから歩行によって侵入するので、圃場内や周辺の雑草は発生源になりやすいので除去しましょう。
- (2) 早期発見に努め、初期防除が効果を左右します。
- (3) 作物が大きくなり葉が繁茂すると、葉裏に寄生しているハダニに薬剤がかかりにくくなるので丁寧に散布しましょう。
- (4) ハダニの寄生で黄変した被害の激しい葉や株は取り除いてから防除しましょう。
- (5) ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので、同じ薬剤の連用を避けるとともに、数種類の薬剤をローテーション散布します。
- (6) ハダニ以外の害虫防除に使用が多くなっている合成ピレスロイド剤などは、天敵類に悪影響を及ぼし、ハダニが逆に増えることがありますので、ハダニ増殖時（盛夏期）の使用はできるだけ避けるほうがよいでしょう。

家庭果樹と庭木の夏季剪定

8月に入ると多くの庭木は伸長成長が止まり、肥大成長期に入ります。枝葉が伸びすぎ、樹形が乱れた庭木を剪定して樹形を整え、樹冠内の風通しをよくします。9月末までに光合成によって来年の養分を蓄積するため、多くの枝葉を払わないことと、幹や太い枝が強い日にさらされ樹皮が日焼けを受けないようにします。

毎年剪定をしている果樹は、真直ぐ伸びる徒長枝が多く出て、果樹や下枝が日陰になるので樹冠全体に日光が当たるように剪定します。剪定は樹勢の強いものは多めに、弱いものは少なめにします。暑さが続けば剪定の時期を遅らせます。ブドウは2番枝を整理、果房がバラバラになる花振るいを防止するため、結果枝の葉は9～10枚程度で芯止めします。また、伸長量が確保できた後も摘心します。イチイ、マツ類、カエデ類の剪定は8月中旬から9月期が適期です。

・ フジの剪定

現在伸びているつるを伸ばすと花芽の付きが悪くなるので、先端を芯止めし翌年のより多くの花芽ができるようにします。本格的な剪定は葉が落ちた11月上旬に行います。

・ イチイの剪定

早めに刈り込んだイチイは2度目の刈り込み時期です。樹冠内の黄色く枯れた古い葉は落とし風通しを良くし、病虫害の発生を防ぎます。

・ マツ類の剪定

ヨーロッパアカマツ・ヨーロッパクロマツは樹勢が強く伸びている枝は切り落とし、樹形を整えます。古い葉は取り除きたくなりますが、寒風を避けるため取りません。マツ類は直線的でなく、稲妻型や川の流れのように曲がりやひねりを付けるように剪定します。

・ モミジ類の剪定

上方から枝を見て枝透かし剪定をします。モミジ類の枝は対生に出るので、中心の芯枝を抜いてV字仕立てに剪定します。剪定は葉に隠れていた幹や太い枝に直射日光が当たると樹皮が焼けて枯れることがあるので枝葉を残し日陰になるようにします。



展示室の植物(44)

ブラジルマツ（別名パラナマツ）

ナンヨウスギ科ナンヨウスギ属

原産地はブラジル南部で 50mにも達する壮大な常緑の高木となります。樹幹はまっすぐで、太い枝を水平に出し、葉は披針形、革質、先端は鋭くとがり、幹にもこのような針葉をつけます。球果は大形の球形で種子も大きく、ほぼクサビ形をしています。

用途：庭園木、建築材、パルプ材ほか、種子は食用。